

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

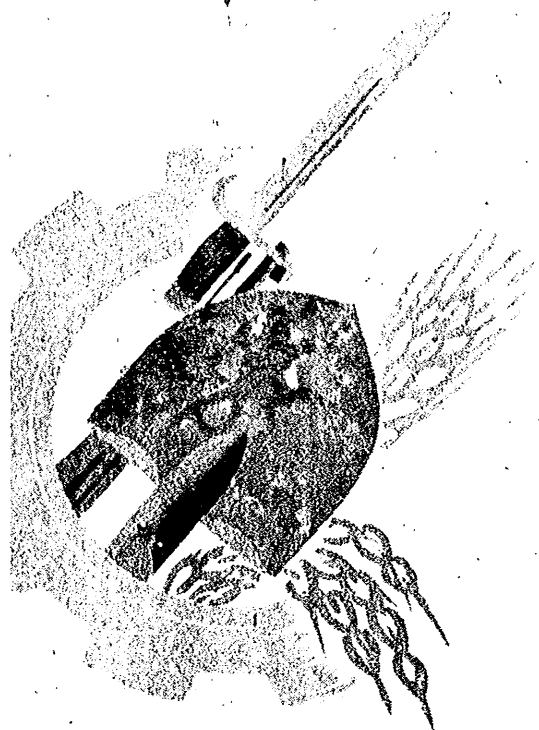
編輯局報情

週報

號日九月二十

我等の必勝態勢

大東亞戰爭一周年 第二特輯



322號

昭和十七年十月一日發
昭和十七年九月九日發
（毎週一、四、水曜日發行）

五錢

週

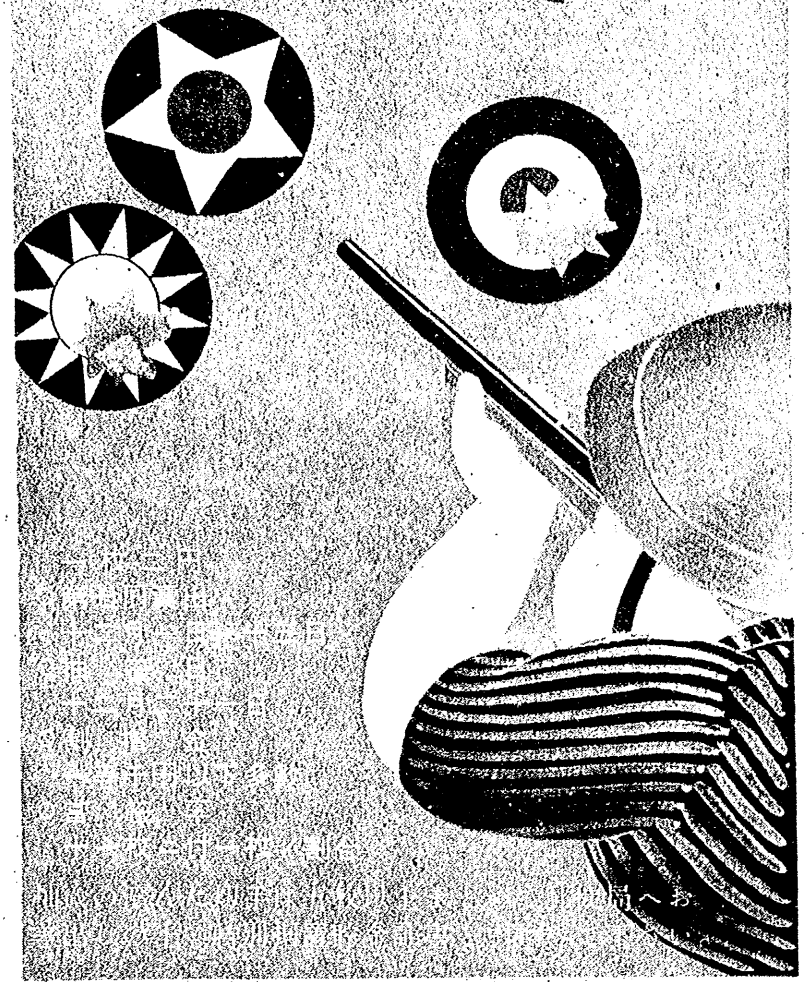
報

昭和十七年十月一日發
昭和十七年九月九日發
（毎週一、四、水曜日發行）

内閣印刷局印刷發行

週報は民翼賛の道しるべ

だんがんきって



（本書の大きさは国定規格A5判）

さあ二年目も 勝ち抜くぞ

情報局後援 大東亞戦争一周年國民決意の標語入選作

露光量違いにより重複撮影

我等の必勝態勢

大東亞戦争一周年 第二特輯

十二月九日発行 第三二二號

目次

- 征戦第二年を
かく戦はう……………二
- 生産戦 必勝の構へ……………八
- 二百三十億への貯蓄戦……………一五
- 隣組貯蓄の實例……………一六
- 戦ひ抜かう戦争生活……………三
- 大空を護る……………七
- 週刊日誌(負傷)……………三

さあ二年目も 勝ち抜くぞ

情報局後援 大東亞戦争一周年國民決意の標語入選作

露光量違いにより重複撮影

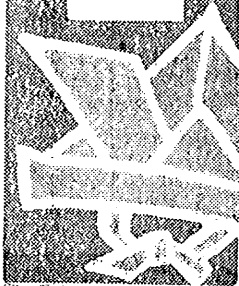
大東亞戦争一周年 第二特輯 我等の必勝態勢

十二月九日発行 第三三二二號

目次

征戦第二年を かく戦はう……………二	生産戦 必勝の構へ……………八
二百三十億への貯蓄戦……………一五	隣組貯蓄の實例……………一六
戦ひ抜かう戦争生活……………三	大空を護る……………一〇
週刊日誌(奥附)……………三	

征戦第二一年をかく戦はう



敵の反攻も必死

輝かしい大東亞戦争一周年を記念すべき日は過ぎました。皆さん方は、この日を、あの大詔を拜したあの日の感激を以て、過去一年のすばらしい勝利の記録を回想しつつ、「御民われ……」の感慨を以て、意義深く過されたことでありませう。

しかしながら、輝かに大東亞戦争の前途と、深刻化しつつある世界情勢を思ふとき、前號の週報でも述べましたやうに、私どもは決して心を許して戦勝の感激に酔つてはゐられないのです。

今もなほ、皆さんがこの週報をお読みになつてゐるこの瞬間にも、南に、北に、いたるところで激戦はつゞけられてゐるのです。相手は今までのやうに、烏合の聯合軍や寄合の聯合艦隊ではなく、生粋の米軍であり、また粘り強い蒋介石軍や共産軍なのであります。

私どもは、御稜威の下、前線將兵の勇戦と銃後一億國民の奮闘によつて、日本全土に十倍する地域を獲得し、太平洋やインド洋を制して、よく不敗の態勢を確立したのであります。敵もまた必死になつて反攻を企てて來たのであります。

「喰ふか喰はれるかの戦ひ」といふことを、敵米國の大統

領ルーズヴェルトは頻りに唱へて、米國民の士氣の昂揚をはかつてゐますが、彼等にすれば、正しくその通りでありませう。いま、南方において、ソロモン海域を失へば、折角、英國から指導権を獲得した濠洲との連絡を絶ち切られるばかりか、わが南方占領地奪還の野望を永久に失ふことになるのであります。また北方においては、日本に先手を打たれたアリューシャン列島の基地を奪還しない限り、折角、十一月十五日に完遂したアラスカ公路も、對日攻撃路として用をなさないのであります。

従つて敵の攻勢も、敗戦の痛手をとりかへさうと必死であり、眞剣であります。ご承知の通り、ソロモン方面では八月七日の第一次反攻以來、わが陸海軍に出鼻を挫かれつつも、執拗にこれを繰返し、十一月十二日から十五日に至る第三次ソロモン海戦にいたるまでの諸海戦で、米海軍の六隻の戦艦をはじめ合計九十六隻の艦船と、輸送船二十三隻とを撃沈破し、さらに飛行機八百五十機以上を撃墜破して敵に致命的な損害を與へたのであります。我もまた、戦艦一隻沈没、同一隻大破、巡洋艦二隻沈没、驅逐艦三隻沈没、輸送船七隻大破など艦船の撃沈破合計三十五隻を

算へ、飛行機三百三十七機の尊い犠牲を出したのであります。

未曾有の大激戦

あの第三次ソロモン海戦で、わが戦艦が一隻沈没したのですが、その最期は戦史に残る壯烈なものでした。十二日夜、わが戦艦が核心となつて、補助部隊とともに敵艦隊を攻撃、巡洋艦七隻、驅逐艦三隻を撃沈、巡洋艦二隻大破、驅逐艦十隻を大中破したので、明けて十三日朝、ガダルカナル島方面の敵飛行機百餘機がわが戦艦めがけて來襲しました。

これを一身に引受けたわが戦艦は、百餘機の敵機に對し猛烈な攻撃を行ひ、敵機多數を撃墜したので、つひに戦艦も満身創痍の損害を受けたこの時、サボ島の島かげから一隻の敵大型巡洋艦がわれに止めを刺さんとして出撃して來たのです。

わが戦艦は、砲としてこれを邀へ撃ち、戦艦は敵巡洋艦に最後の巨弾を酬ひ、忽ちこれを撃沈したので、その後、わが戦艦は長時間の奮戦の後、つひに沈没したので

す。

その凄烈な奮戦ぶりがまるで眼に見えるやうで、私どもの感奮を促してやみません。

これこそ、正しく敵にわが皮を切らせて、敵の肉を切り、わが肉を切らして骨を切らんとする眞剣勝負であり、決戦であつたのです。

そしてまたガダルカナル島をめぐるつて、彼我陸兵の死闘も執拗につゞけられてゐます。

侮れぬ敵の戦力

敵は南太平洋の敗戦の趨勢を挽回しようと、わが海軍部隊が僅少な兵力を以つて占據してゐたガダルカナル島及びその附近に、去る八月以來、米軍部隊を大舉上陸させたのです。そこで、わが陸軍部隊は、海軍と緊密な協同の下に數次に亘り極めて困難な上陸を敢行しました。これに對して、敵も上陸部隊の補給と増援のために必死の反抗に出で、さきに述べたやうに數回にわたるソロモン海戦の展開を見たのでした。

す。

この方面は、南太平洋におけるわが作戦根據地より甚だしく遠隔、且つ絶海の孤島とも稱すべき不毛瘠瘠、未開の地であり、この方面にすでに根據を占めてゐる敵軍の航空勢力の活動を制して上陸、特に補給を行ふことは、まことに容易の業ではなく、従つてこの方面の作戦に任じてゐる將兵の艱苦も、想像に餘りあるものがあつたのでしたが、堂々これを克服して遂次敵軍に壓迫を加へつゝあるのであります。

これがいま戦はれつゝある戦ひの實相であり、敵も幾度敗れてもまた幾度か、そのもてる武力とその生産力に物を言はせて、反撃をつゞけようとしてゐます。

敵の戦意も決して侮ることは出来ません。艦隊外とはいへ、わが戦艦めざして集中攻撃を加へ來り、戦列をはなれるや、さらにこれを攻撃し、つひに撃沈せしめるやうな攻撃精神をも發揮しつゝあるのです。開戦劈頭プリンス・オブ・ウェールズを轟沈させたわが攻撃精神は、世界に冠たり、敵のよくなすところでないことは今更いふまでもありませんが、敵もまた敵なりに相當の攻撃精神を發揮しつゝ

ある事實を、私どもはこの際、はつきりと銘記すべきであります。

敵は日本及び樞軸國を屈伏させて最後の勝利を獲得するのは、これからだと宣言してゐるのです。十二月八日（わが大東亞戦争一周年記念日の八日はあちらでは七月に當る）「沈黙の祈禱日」とするが、來年の元旦は「戦捷黙禱日」とすると、敵は豪語しつゝ、國民の士氣の昂揚をはかつてゐるのです。「眞珠灣を覚えてゐる」と、自由主義の米國民でさへ、來るべき日に備へて戦意を燃やしてゐるのです。

今こそ一億奮起の秋

戦ひの實相を知れば知れる程、奮起するのが日本人であります。想へば一年前のあの日、米英宣戦の報を聞いた時、たとへわが國土に空襲を受け、生活を脅かされても、米英艦隊の口まで、どんなことかあつても戦ひ抜くことを決意した私どもです。幸ひにして、戦局は豫想以上に有利に展開したからといつて、今にして戦勝に押れてはなりません。「戦ひはこれから」とは單に私どもを戒める言葉ではあ

りません。

この戦局と敵のこの出様を見て、必勝の決意を固め、戦争完遂の一億總進軍に乗り出さないものは日本人ではありません。戦艦を失つたといへば、「一艦を失はば二艦を建造せん」と、あの日から街に建艦献金が盛り上り、途端に工場の生産能率が飛び上つたのですが、これが頼母しい力強い日本の本來の姿です。

前線の兵隊さんが久し振りで内地へ歸り、銀座街頭に立つ時、戦時下にふさはしくない光景に憤慨もするが、また、これだけの戦争をしながら、このゆとりのある祖國に感謝する氣持にもなるといつてゐます。

しかしながら、もう何時までも、このゆとりに心安んじてゐる時ではありません。

「大東亞戦争は長期戦だから、百年戦争だから、腰を据ゑてゆつくりやらう」といふ考へ方がないでもありませんが、これは非常に危険です。なる程どんなに長期に亘らうとも戦ひ抜くといふ決意は絶対に必要ですが、長期戦だからそろ／＼と力を出し惜しむやうな料簡では戦争には勝て

ません。

マラソン競走ともなれば、最後からゆくり走つて行つたにしても苦しいことは大して變りありません。むしろ最初から頭張り抜いて、勝ち抜けば、勝利の榮冠ととも、それまでの苦痛も補つて餘りありません。今はどの國もみんなこのマラソン競走をやつてゐます。

そしてその出足を押へて先頭を切つてゐるのが日本です。今こゝで、氣をゆるめては、調子を出しかけてゐる米英に追ひ込まれることになりません。今こそいくら辛くとも押し切らねばならぬ秋です。その瞬間々々が勝負であり、決戦です。

長期戦、長期戦といひますが、それは、東條内閣總理大臣が言はれるやうに、ゲリラ戦的の小さな戦争がだら／＼つづくいはゆる「細く長い」長期戦とは自ら異なるのです。大東亞戦争こそは、大小幾多の決戦が次ぎから次ぎへと連続して行はれる長期戦なのです。ですから、明日の決戦に備へると共に、遠い将来の決戦のことを考へねばならない戦争なのです。かう考へてみると一刻の猶餘も出来ません。

を造り、しかもそれが一日でも早く出来るやうになれば、それだけその大戦争の力は増して行くのであります。農村で働く人々や、商賣をしてゐる人も同じことです。あらゆる工夫をし、無理をきかしてその力を出し切らねばなりません。

「その手ゆるめば戦力にぶる」と國民決意の標語にもいはれてゐますやうに、皆さんの一擧手一投足が直接戦力に響き、皆さん方が更に一層努力するか、安きを求めて怠るかによつて、戦局は直接に影響されるのであります。

「必勝の信念」といふことが盛んに論議されますが、いくら観念的にわかつて、一つの實行には及びません。まさしく「理窟いふ間に一仕事」です。

戦争は身近かにあります。前線は、御稜威のもと、わが將兵の勇戦奮闘にお任せして、私どもは前線の將兵が心おきなく戦へるやうに、第一線將兵と同じ氣持になつて、職場で、職域で、生命がけで働くことです。職場精神は、私どもの職場に、生活の中にもそそげられねばなりません。私どもが大東亞戦争一周年を意義あらしめるのは、この

すべてを戦争へ

今や一刻の猶餘もなく、國家のあらゆる力を總動員して、米英撃滅の戦ひを推し進めねばなりません。しかもその戦ひの責任はほかでもなく、國内の私どもの双肩にかゝつてゐるのであります。艦船が一隻沈めば二隻三隻を造る。飛行機を百機失へば二百機造つて、つねに敵の優位に立たねばなりません。それを造るのが私どもであり、皆さん方です。戦費の調達も一億國民の共同責任です。皆さんが工場で型をとるのも、金物を削るのも、鋸を打つのも、或ひはまた事務所で事務をとるのも、その他いろいろの仕事は、すべてその結果は、陸海軍の將兵が、海に、空に、陸に、威力を發揮するために缺くことの出来ない兵器をはじめ、各種の軍需品となり、或ひはそれを造る機械器具となり、或ひはまた戦力を高めるいろ／＼の物資となるのです。

ですから、工場に働く人々が少しでも作業能力を吊り上げ、また事務の能率を擧げ、一つでも餘計に立派なもの

戰場精神を、私どもの生活の中に生かして、必勝のための責任をはたすことに他なりません。

大政翼賛會では、政府の諸施策と呼應し、この一周年を期して戦力増強の國民翼賛運動を展開し、征戰第二年をめざして、一億總進軍を行ふことになつたのであります。

その目標は、(一)戰場精神の昂揚、(二)生産増強の決行、(三)戦争生活實踐の徹底、に重點が置かれています。そして翼賛會傘下の團體をはじめ、町内會、部落會、隣組等の基盤組織の活動に重きを置いて、眞に國民の一人々々がよく實踐者たることを主眼としてゐるのであります。皆さん方に逞しい實踐を要請してゐるのであります。

要するに、戦ひに勝ち抜く道は、私ども一人々々が、時局の真相を認識し、皇國民精神に徹し、「戰場における」死奉公の誠を、生産場に、日常生活に具現することにあるのであります。

いま私どもは何をなすべきか。こゝに當面の重要な問題をとりあげて「我等の必勝態勢」として特輯することにしました。

生産戦必勝の構へ



経済戦でも米英撃滅

近代戦は單なる武力戦ではなく、國家の總力を擧げての戦ひであることは、第一次世界大戦以後、何人もこれに異議を唱へる者はありません。すなはち、近代戦は武力の戦ひであると同時に經濟の戦ひであり、思想の戦ひでもあります。これ等のいづれが缺けても戦争に勝つことは出来ないのである。殊に科學技術が高度に進んでゐる今日では、兵器の補給力の増大に伴つて、戦争に費される武器彈藥の數量は全く

想像以上で、近代戦が消耗戦ともいはれる所以もこゝにあるのです。このやうにして必然的に近代戦は生産力と生産力との闘ひとなり、たとへ一回の決戦に勝利を得ても、相次ぐ決戦で十分な兵器の補充が出来なかつたならば、遂に敗戦國の憂目をなめさせられるのです。

富強を恃む米國は、その物質的威力に物を言はさうと、八月の第一次ソロモン海戦以來、必死の反撃態勢に出で、その都度果敢な皇軍の反撃に遭つて空しく敗走の醜狀を世界に曝してゐ

ますが、敵米國の生産については一瞥して見る必要がありません。

米海軍責任者の報告によりますと、この春、日産一万吨級の船舶一隻を建造してゐたのが、六月頃からは一日二隻強となり、さらに本年末から明年初頭にかけては日産三隻が豫想され、また飛行機なども、この頃は月産五千臺に上つてゐるといふことです。もちろん、私どもはこの米國の老大な生産計畫や、物的生産量の大きさに驚くは當らないのですが、今日の戦争が經濟戦である以上、その經濟力を無視す

るわけにはゆかないのであります。殊に米國が資源の富強さと經濟力を頼つて、今後、經濟戦に主力を注ぐ計畫であるといふと、なほ更なことです。

従つて私どもは、今や緒戦の華々しい戦果や、それに續く皇軍の勇戦奮闘だけに酔つて、大戦の前途をむやみに樂觀したり、敵を侮るやうなことがあつてはなりません。この意味で、國民は大詔渙發一周年を機會に、今次の戦争の意義を深く反省し、米英の眞の力——武力、經濟力——を認識した上で、必勝不敗の信念と決意を固め、米英撃滅に總力を結集し、大御心を安んじ奉らなければならぬのです。そこに昨今問題になつてゐる米英經濟力検討の意義があります。しかし常に忘れてならないことは、われわれは、世界無比の日本人であり、産業人であるといふことです。私どもはこの産業人が

總力を發揮さへすれば、必ずや第一線にある皇軍將兵のやうに、經濟戦でも米英を撃滅できると確信してゐます。

米英を打ち破る力

かう考へますと、産業人の使命は誠に重大であります。殊に米國の經濟的攻勢が傳へられます秋、その使命は一層加重されて來るのです。今こそ一稔の飛行機、一隻の軍艦の生産は勿論のこと、一トンの鐵、一トンの石炭の採掘をはじめ、ミシンの一針であつても、直接、間接に戦争と關係のないものはありません。

戦争が進展するにつれて、この關係はますます明らかとなり、總力戦の形態を具體的に現はして來るのです。第三次ソロモン海戦の戦果は、はつきり國民にそのことを物語つてゐます。大東亞戦争は單なる第一線將兵の戦争でもなく、また抽象的な總力戦でもな

いのであります。本當に國民の一人一人が自分達は米英と戦つてゐるのだといふことをしつかり肝に銘じさせ、毎日の戦場の動勢はその「戦ひ」であるといふ覺悟をもつて生産戦に従つていただきます。

それも従來の戦争のやうに、武器や彈藥を自由に他國から輸入できた時代は兎も角、今度のやうに世界をあげて戦ひ、物資の連絡がとれない場合は、第一線の作戦行動と銃後の經濟活動とは、一層密接不可分な關係にあるのです。經濟活動のどこか一ヶ所に障礙が起つても、すぐに作戦に大きな影響を與へるのです。今日の生産が軍事行動であるといはれるのもそのためなのです。

そこで、彼れの經濟力の強弱といふことが非常に問題となつて來るわけですが、これまでの經濟觀念にとらはれて考へたならば、この比較は殆んど問

題に於けるのです。二三年前まで、
否、大東亞戦争勃發の直前まで、世界の
誰が蔣介石の外に米英といふ世界の二
大強國を相手に日本が起ち上り、今日
の優勢をつげると豫想したでせう
か。

わが国内でも、なか／＼結論の出な
かつたことは、未だ私どもの記憶に新
らしいところでは、その誤認の最も大
きい點は、經濟力の認識を缺いてゐた
こととす。すなはち、これまでの資本
主義的經濟觀念に基づいて、彼等の經
濟組織や産業の形態の上で比べま
したならば、わが國の優つてゐるもの
は、殆んどないといつても過言ではな
いでせう。わけても經濟的資源や機械
力については雲泥の相違があります。
この舊觀念に基づく經濟的劣勢を顕
ばして、今日の優位を保持してゐるも
のは二體何でありませう。
米英は、今までは緒戦で武力戦の域



威力を發揮してゐる各種艦船、飛行
機、戦車等は、すべてわが産業人の手
によつてつくられたものなのです。従
つて今日の戦果は、忠勇無比な皇軍
將兵の武士道精神と、産業人の産業報

國精神の結晶ともいふことが出来ま
す。その産報精神こそ經濟戦で米英を
打ち破るものなのです。

産業報國精神とは日本の勤勞觀のこ
とであり、その精神が全産業人に顯現
されてこそ、必勝不敗の經濟體制が確
立され、眞の生産増強も、はたまた優
秀な軍艦、飛行機、戦車等々の生産も
可能となるのです。

日本の軍隊の強いのは、大和魂のた
めだといはれます。しかも軍人と産業
人とは、別に違つた人種でも何でもな
く、共に同じ日本人なのです。それが
一度軍服を着ると、決死隊の一員とも
なり、軍神ともなるにもかゝらず、
産業人としては立派な皇國民としての
活動ができないとしたならば、それ程
不思議なことではないのです。皇軍が世
界無比であるやうに、わが産業も世界
無比となることは絶対に不可能なこと
ではないのです。

日本の勤勞觀の確立

この日本の勤勞觀に基づく、必勝不
敗の經濟體制を確立することが、現下
の産業報國運動に與へられた使命であ
ります。事實、經濟的資源や人口の數
では劣るわが國が、米英を向ふに廻し
て經濟戦に勝ち抜くには、國民一人一
人の勤勞を最高度に發揚することが最
も大切なのです。それには日本の勤勞
觀の確立が根本問題なのであつて、こ
れについて勤勞新體制確立要綱(昭和
十五年十一月八日閣議決定)では、次
ぎのやうに述べられてゐます。

勤勞ハ皇國民ノ奉仕活動トシテ其ノ國
家性、人格性、生産性ヲ一體的ニ高度ニ
具現スベキモノトス。

從ツテ勤勞ハ皇國ニ對スル皇國民ノ責
任タルト共ニ各業タルベキコト、各自ノ
職分ニ依テ其ノ能率ヲ最高度ニ發揮ス
ベキコト、秩序ニ從ヒ服従ヲ重シク協同

シテ産業ノ全體的效率ヲ發揚スベキコ
ト、全人格ノ發露トシテ創意的、自發的
タルベキコトヲ基調トシテ勤勞精神ヲ確
立ス。

また、大日本産業報國會の創立宣言
は、その最後に「職場は我等にとつて
臣道實踐の道場なり。勤勞は我等にと
つて奉仕なり、歡喜なり、榮譽なり、
手段に非ずして目的なり。艱苦缺乏何
かあらん。剛健なる意志、不屈の氣
概、範を垂れ衆を化し、塵烟の下、響
音の裡、分を盡し職に生き、以て皇國
の彌榮を效さむ」とうたつてゐます。
すなはち、最早や事業主は單に自己
の營利追求のために労働力を賃金で購
ひ、また労働者は宛も商人が有利な條
件を提供する買手を求めるやうに、よ
り高い賃金を求めて職場を移り歩くとい
ふことは絶対に許されないのである。
勤勞は、上御一人に對する私どもの奉
仕活動であります。そこには一點の私

利私慾があつてはならないのです。

それゆゑ産業報國運動は、先づあら
ゆるもの前提として、從來の自由主
義的労働觀を一掃して、産業界に日本的
勤勞觀を打ち建てることを實踐する運
動であり、その意味で産業運動は思想
革新の運動であるといへるのです。

昭和十三年の春、産業報國運動が提
唱されてから五年を経過し、また大
日本産業報國會といふ全國組織が結成
されてから滿二年、今では誰一人とし
て産業報國の精神に反對するものはな
くなつたのです。しかし事業主も、經
営者も、職員も労働者も、全産業人が
果して眞に産報精神を體得し、心の底
からその精神に基づいて行動してゐる
か、どうかといへば甚だ性疑たるもの
があるのです。或ひは各個人は、一生懸
命にやつてゐるといふかも知れないが、
客觀的に見た時には足りないところが
澤山あるのです。各企業體について

も、それを構成する資本、経営、労務の三者が有機的に一體となり、最高度の効率を上げてゐるかどうかは疑問なしとしないのです。

生産も戦場精神で

これに關して面白い實例があります。この春、大日本産業報國會で行つた技能競争大會の某探炭競技場においての出来事であります。この競技場に當てられた石炭山は自他共に許す立派なところで、その坑夫達の能率も、殆んど最高に近いものと思はれてゐたのです。ところが、その競技で坑夫達の發揮した能率は實にすばらしく、これまで十時間かゝつた探炭量を僅か四時間で出してしまつたのです。もちろん實働時間を正確に計算すると共に、競技と平常の作業との相違を考慮しなければならぬのですが、いづれにしても、作業にふさはしい條件を整へ、且

つ坑夫達が真剣になつた時には、現在の能率の倍近く出せるといふことがはつきりしたわけですから。現に同鉱山ではその結果に省みて、これまでの十時間労働を八時間に短縮し、残餘の二時間を坑夫達の修養と體育に充て、非常な成績を擧げてゐるといふことです。また、これは本年一月から三月まで大日本産業報國會で實施した機械實働率増進運動(機械工場)の結果ですが、その調査によると、今日のわが國の機械の實働率は、平均半分にも遙かに及ばない状態です。勿論、これは資材とか電力の不足といふ不可抗力の條件を除外しての話で、作業の管理を改め、お互ひが注意すれば除去できる原因に基づくものばかりです。従つて當然動くべき機械がこの戦時下に半分以上も遊んでをり、それに就いてゐる勞務者も、それだけしか働いてゐないといふ結果になるのです。

私どもはこれ等の實例によつて、日本の經濟力はまだ餘力のあることを知り、頼母しく思ふのですが、またこのまゝであつては絶対にならないといふことを痛感するのです。勞力不足とか、資材不足といふことを、生産阻害の原因として私どもはよく耳にするのですが、物的に、また人的に大きな量的制限を受けてゐるわが國が、この難局を突破できる血路は、皇國民の總力を如何に結集し、その勤勞の生産性を如何に昂めるかといふことにかゝつてゐるのです。

いま、假に前に述べた機械實働率増進運動の結果を全産報會員七百万に對してはめ、その一人々々が一日の實働率を一〇%づゝ昂めたならば大へんな結果となります。かう大雑把にいふと、抽象的となつてはつきりしないかも知れませんが、それだけの戦場で、各人が實働率を一〇%づゝ昂めることは、

左程困難なことではないでせう。

勿論それには、何もそれだけ作業時間を延長する必要は毫もないのです。むしろ今日では、このやうな手段は絶対に避け、作業環境の整備、工程管理や勤務管理の改善によつて成し遂げることが肝要で、さきに述べた二つの實例によつてそれは可能なのです。即ち、全産業人がそれらの職分において國の至情に基づく勤勞精神を昂揚することです。事業主、職員、勞務者によつてその顯はし方は異なるでせう。しかし共に歸一するところが一點であれば、その愛國の至情は物凄い威力を發揮することとなることは請合です。

責任者の陣頭指揮

産業報國會が日頃行つてゐる事業や運動は、すべて前に述べた眞の勤勞精神の昂揚をめざすものです。すなはち、各單位産業報國會に五人

組を最下部單位とする部隊組織をとり入れたことも、懇談機關の運営と相俟つて、戦場に渾然一體の秩序を確立し、一切の事業や運動の基盤にしようとするためであり、その基礎の上に今春か



ら展開してゐる相俟確立運動の成果が、見事に現はれてゐることは、世人の齊しく認めてゐるところであります。産報のあらゆる活動は、これまでの自由主義に基づく利己本位の戦場を、

日本本來の家族主義の豊かな戦場に改め、全産業をその精神で指導して、各人の勤勞を最高度に發揚する國民運動であります。そのためには各産業人が、臣道實踐にふさはしい戦場を建設することですが、特に經營責任者の陣頭指揮が必要であります。今までの考へ方からすれば、經營責任者の職分は、他に重要なことがあつたかもしれませんが、今日、その陣頭指揮が要請されるところに時局の重大さがあるわけですから、東條内閣總理大臣は去る十一月十五日、官邸における生産首腦者との懇談會で、陣頭指揮を強調し、その中で

「申すまでもなく、戦争にはあらゆる困難や無理を伴ふものであり、この困難や無理を突破してゆくところに戦勝の要諦がある。……經營者諸君が進んで創意を發揮し、あらゆる不足を克服してこそ、そこに眞の進歩がある。しかも、それには根本的

な技術の進歩を圖ることももちろん大切であるが、案外身近で簡単に實行できることで気がつかないものが澤山ある。これらを積極的に採り上げて實行に移してゆく必要のあることを、各方面の視察によりしばしば私は痛感させられる……

産業人の總進軍

十二月八日の大詔渙發一周年を期して、大日本産業報國會が大政翼賛會と協力して展開した生産力増強總進軍運動は、この陣頭指揮運動の成果を全面的に實踐すると共に、過去の運動の経験に基づき、首相が言はれる身近なところに轉がつてゐるところのいろ／＼な生産を妨げる原因を除き、そして眞の生産力増強に寄與しようとするものです。この運動は、一見消極的にみえるの

ですが、非常に積極的な意味をもつものであり、現下のわが生産力増強の基礎となるものです。また一面からみれば、陣頭指揮運動は経営責任者の日本的勤勞精神昂揚の運動で、それ以前のいろ／＼な運動は、主として一般勤勞者を對象とする日本の勤勞觀昂揚の運動であつたのですが、今度の運動はそれ等を行つて一丸とした右余産業人の總進軍の運動であるといふことも出来るのです。

この運動は皇國産業人として大詔奉戴一周年を迎へるに當つて、大御心を體し、聖慮に應へ奉るの決意を新たにすると共に、第一線將兵の赫々たる戦果に對する感謝感激の熱意を、具體的に各人の實踐の上に盛り上げ、生産能率を妨げるあらゆる障礙を打ち破つて、生産力を彌が上にも昂めようとするものです。この運動では、生産能率増進の上

らみて、日常作業の上で改善せねばならない事柄とか、勤勞力の維持培養の上からみて、ぜひ實踐せねばならぬ事柄とか、その他單位産業報國會である工場鑛山の實情に應じ、増産目標または生産増強上、緊要な問題を探り上げ、そしてこれを完遂するために必要な事柄を具體的達成目標として定めます。従つてこの運動の特色は、中央が具體的目標を示すことなく職場自體で選定し、これによつて運動に自主創意の餘地を十分に與へたことです。かうして、職場の間々まで必勝不敗の體制が確立され、米英撃破の經濟體制は磐石の重きを加へ、大和魂のこもつた眞の生産力が、量的に大を誇る米英の生産力に止めを刺し、皇軍の勇戦奮闘と相和して大なる戦果を擧げるものと期待されます。

その手ゆるめば戦力にふる

二百三十億への貯蓄戦

大東亞戦争完遂の貯蓄戦

大東亞戦争始まつて以來一ケ年、その間、貯蓄の聲は一段と大きく全日本に叫ばれてきました。戦争と貯蓄とは切り離せない關係にあり、戦場において武器、彈藥が絶對必要であると同様に、銃後では活潑な貯蓄がぜひ實行されねばなりません。平時の貯蓄は、私どもの勝手にまかされてゐました。單に個人の私財を殖やし、一身一家を榮昌させ、或ひは老後の安定、不時の必要に備へるためと考へてをれば事足りたのであり、そ

れがまた國家の發展とも合致していつたのでありますが、戦時における貯蓄は全く別の意義があるのです。即ち、まづ國家の強い要求があり、銃後國民がせひとも果さねばならない大きな義務となつたのです。戦時の貯蓄は自由勝手な氣まかせなものではなく、或る時は個人の生活上の苦痛を忍んででも貯蓄してゆかねばならないのです。そして本年度貯蓄目標額二百三十億圓の達成こそ、大東亞戦争完遂の鍵であり、われ／＼國民が是が非でもやりとげねばならない義務となつてきたのです。

ところで、本年度上半期の國民貯蓄実績は、百九億四千万圓で、特に第二四半期(七月―九月)の実績は四十億二千六百万圓に過ぎず、本年度目標額二百三十億圓の一分八分にしか當つてゐません。従つて本年度の下半期においては、約百二十一億圓といふ巨額の貯蓄をなし遂げねばならないわけで、そのために國民一人々々の自覺と貯蓄報國心の發揚が切實に期待されてゐるのである。そしてこの十二月だけで、どうあつても五十億圓はやりとげようとしてゐ

るので。

貯蓄も國民の覺悟次第

敵國米英は世界中で一番物資の豊かな國でしたが、今度の戦争が始まつてからは、にはかに「物」が高くなるやら、足りなくなるやらで國民は悲鳴をあげてゐます。それでも米英の國民は貯蓄をしたり、物を節約したりして一生懸命になつてゐます。敵も勝つために懸命です。

しかし大和魂をもつてゐる私ども一億國民は、ひとり武力戦においてのみならず、銃後の貯蓄戦においても、彼等に勝つて打ち勝つことができるはずで。

明日知らぬ第一線で右手に銃をもち、左手に通帳をもつ兵隊さんのことを思つただけでも、眼頭が熱くなるではありませんか。支那事變以來、昨年末までに第一線の兵隊さんが、戦ひなが

ら積み上げた貯蓄額は、三億圓にも上り、しかもその後、日毎、月毎その額はふえてゐるといふことです。

前線の兵隊さんが、ポケットにおさまれた貯金通帳を、鮮血でいろどつてゐるとき、銃後の街に酔漢がふらつき、温泉地の旅館が超満員だつたり、遊興飲食税の徴収高がうなぎ上りに上つてゆくといふやうなことがあつてもよいのでせうか。

「物」が足りなくとも不平をいはず、新しい工夫をするところに貯蓄戦を勝ち抜く道はあるのです。下段の「隣組の貯蓄例」などを讀みますと、ほんたうに頼母しい限りですが、この實例にみられるやうに、國民全體が工夫に工夫を重ねますれば、本年度の目標達成ぐらゐはなんでもないわけですから、要は國民の心掛けと工夫次第です。銃後においても支那事變が起つてから、物價はかなり騰つたが、収入がその割合

に上らないといふ方も澤山あるでせう。しかし貯蓄戦でも、節約戦でも、米英の國民に打ち勝つて見せるといふ強い意氣込みでやれば、きつとそれだけの効果が上つてくるのです。

貯蓄増強の方法

次に貯蓄の増強をはかるにはどうしたらよいか、一般的な事柄をあげてみます。

貯蓄組織の確立

貯蓄をするには、自分一人だけであるといふのではなく、出来るだけ組織的に協力して貯蓄する方が興味もあり、効果もあります。

従来、隣組では、組合貯蓄や、公債が割當られたから、やむを得ず貯蓄をする、國債を買ふといふのが非常に多かったのですが、これからはこのやうな近隣に對する中譯的な貯蓄であつ

てはなりません。日本全國の隣組は、貯蓄の責任ある組織であるといふ自覺のもとに、自ら進んで割當額は必ず達成するといふ熱意をもたなければならぬのです。

大東亞戦争が續く以上、貯蓄目標額は、本年の二百三十億圓より年々と増加してゆくことと思はれますが、その時こそ全國の各隣組が中央、地方を通じて強力なる貯蓄責任體として活躍できるまでになりたいのです。

販賣産業方面等の貯蓄

前にも述べましたやうに遊興飲食税、物品税等が著しく増加してゐることは、わが國のどこかに未だ貯蓄の余力が相當にあるとみなければなりません。従来からも大都市、販賣産業方面、請負業者、自由労働者等には、貯蓄の余力があると着目されてゐましたが、この方面の貯蓄に對する熱意が未だに不十

隣組の貯蓄例

これは情報局が日本救済協會と協力して、あなただけの困窮を、どうやつて貯蓄を國債消化の資にあげてゐますか、の題で、隣組から集めた、約二百名の事例の中から採り上げたものの一節です。女性の活躍は次回の選集「婦人の力」で、其選集第十六頁に掲載し、十二月（土）午前九時の臨時生活相談の時間に入選者を発表します。

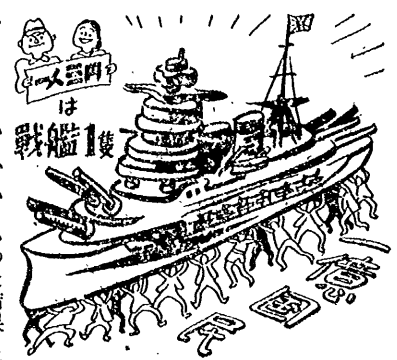
趣味と實益の名案

東京市赤坂區 松 木 銈 祐
私の隣組は十六軒で、その中に清元の師匠と編物の先生がをります。その二人に熱心奉仕と職域奉仕を願ひ、前者には男連中が約十人、後者には女連中が約十五人が、奉仕的實費の特別會費で毎月お稽古を願つてをります。そして會費を二ヶ月積立てておき、二ヶ月目毎に町會から割當でくる國債の大半を、清元會と編物會の兩者で天引的に引受け、先生と師匠への感謝も債券で済ませ、その残部を町會で會員に分配します。運好く當つた人は、會費がタゞになるわけ

その上、趣味と實益を通じて、親睦を深め、また町會から引受ける一軒當りの國債の好結果を非常に少くなり、一石三鳥の好結果を擧げてをります。將來は、清元會と編物會を増大増員し、兩者の會で、樂々と國債消化の消化ができるやうにしたいと思つてをります。全國の町會、隣組が、各自の組内に居住してをられる師匠先生方の熱心人を動員して、この方法を採りますれば、銃後緊張の中にも一脈の和やかな潤ひが生まれ、長期戦下、精神的にもまた大變結構と信じます。圍碁、將棋、茶、花、琴、謡曲、ピアノ、舞踊、長唄、常磐津、哥澤、小唄その他スポーツ等々々々、何にでも適用できる方法であります。

点数按分法はいかが

新潟市西區町三丁目二八二
町内會長 新山 秀 久
貯蓄や國債消化の實績を擧げるには、「御民われ生けるしるしあり」の感激と自覺は勿論ですが、要は負擔力に應じて公



分なところから、かういつた結果を生んだと思はれるのです。従つて日常の生活において浪費の甚だしい階層に對しては、機會のある毎に座談會、懇談會等を開き、その覺醒を促すと共に、特に必要のあるときには、自覺の乏しい階層に對して戸別訪問等を行ひ、その協力を求めなければならぬのでせう。

金屬供出による収入金の貯蓄
軍艦、戦車等を造るには、銅や鐵等が

必要ですが、今や、單に山から掘り出される銅や鐵のほかに、官廳、會社をはじめ、私共の家庭等にある銅や鐵等も、より大きな國家目的のために動員しなければならぬになりました。

そこで官廳も、會社も、家庭もこの戰爭に役立つ金屬全部を供出しなければならぬになりましたが、その上、望みたいことは、その賣却代金は隣組長、町内會長、部落會長等の指導のもとに全部貯蓄することにしたのです。

かうすれば、金屬を供出し、「物」によつてお國のお役に立つと共に、更にその賣上代金を貯蓄することによつて、二重に御國に御奉公できるわけで、二石二鳥の効果があることになりました。

賞與と季節収入(配當、利息、麥類、蕪等)の貯蓄

賞與は必ず全額を貯蓄に向けたものです。國債や報國債券を買ふとか、或

年に貯蓄目標額を定めることと、隣保精神の發揮とに思ひます。私の隣組では、割當額の完全消化を目標とし、戦局の長期化に應ずるため、伸縮性のある點數按分法を採用しました。

まづ負擔力の公平を期すため、町内會に貯蓄額を割當てる際に規準とした税額や、所得収入等への割振りの率を、市の振興課でうかがひ、それに基づいて町内會で各隣組の負擔力を相談しました。そこで、私の隣組でもこれに基づいて、次ぎの點數制を採用して各戸で分擔することになりました。まづ各戸の負擔力に大差がありませんから、隣組常會で十點、中九點、下八點とし、さらに上中下の家を、所合ひの上、結局、上なしの中九軒、下四軒としました。そこで、

中は九點が九軒で八一點
下は八點が四軒で三三點
この合計一二三點で貯蓄目標額を割りますと、一點當りの負擔額が出ますから(頭位線上げ)
中は一點當り負擔額の九倍

ひは定期預金、金銭信託等できるだけ長期預金にする事が利率も一番よく、またお國のためにもなるのです。株式配當金や、利息などは、出来るだけ長期預金とし、また農村では、今までも麥や蕪等の農家收穫物、水産物等の代金の入る時期に、天引貯蓄等を實施してゐましたが、この際、貯蓄率を一層引上げて貯蓄するやうに行きたいものです。



このことは今までもよく唱へられてゐましたが、餘り實行されてゐないことは甚だ残念です。全國民が冠婚葬祭に使用する物、贈答する「物」の量は莫大なものと思ひますが、この際、冠婚葬祭を徹底的に簡易化し、贈答は決してしないやうにし、それらの「物」を軍需方面に廻したいと思ひます。「物」の不足の時ですから、物を新調したり、贈つたりすること自体が非常に困難でありませうが、不足勝ちの物資を、ますます不足にし、その上、「金」の流通を一層激しくして物價高の原因を作るやうなことはやめねばなりません。

冠婚葬祭の簡易化と贈答禁止による貯蓄増加

それには官廳、會社、學校、市町村、部落會、町内會、隣組等の常會において、固い申合せを行ひ、「物」を浪費する悪習慣を極力改善することが大事です。

下は一點當り負擔額の八倍で各戸の貯蓄割當額を決定しました。つまりこの合計が隣組の目標額になります。かうして内示により、各戸の割當額の約六割を國債債券の消化に、他は貯蓄に豫定し、各戸は皆この目標達成に責任をもつて下さい。

それ故、隣組長は債券の到着次第もつてゆけば、額面の大小にかかはらず、時にお困りかと思ふ時も、平素の準備で、目標達成を樂しみに引受けて貰ひ、明るい心になります。點數按分法は各戸の負擔力に差が出来れば、點數の開きを大きくすればよいし、按分法だから年度の目標額に應じて伸縮自在です。たゞこんな方法でも成果を得る基は、結局、國民的自覺と隣保精神以外にないことを痛感してをります。

女ばかりで國債消化

高知縣高知市長尾山町八幡
四組長 中 島 園 恵
私達の隣組は十一月十二日、族から成つてをります。會社員、警察官、官吏、市吏員、農業者、養蠶業、小作人、自衛さん

不要不急旅行自制による貯蓄の増加

戦時には軍需物資、軍需品等の輸送が多くなり、輸送力には限りがありますので、現在は軍需物資の輸送にも支障を来すといふ有様です。

気候がよくならずと、暮参りに歸國する人、或は官廳、會社等の休暇をとつて物見遊山に出かける人、その他、名所、舊蹟等の見物に出かける人々が増加するのが常ですが、私達は不要不急の旅行は、この際、一切中止して、輸送力の確保に努め、物見遊山等の費用は全部貯蓄に振り向けたいものです。

貯蓄組合の整備と貯蓄額の適正増加

貯蓄組合が結成されてから、着々とその効果をあげていますが、これは組織的、継続的な貯蓄奨励の方法として最上のものであり、貯蓄者にとつても一番有利です。

國債買入の増加

今まで貯蓄組合整備の十分でないものや、まだ貯蓄組合が作られておなかつた地域、職域等では、この際、速かに、その整備、強化に努め、適當な割當額を定めて下さい。

商業、工業、貿易、農林、水産、畜産等の産業關係團體の中には、まだ貯蓄組合が作られていない所がかなりありますが、この際、未結成組合は皆無とせねばなりません。なほ各方面において貯蓄増加の目標額を定めますときは、種々の事情をよく考へ、各地の實情に則してその適正化を圖らねばなりません。

もありません。買つたら、直ぐ郵便局や勤業銀行の無料保管を利用するのが一番便利でせう。

その他、新しい工夫による貯蓄の増加

以上の外に、まだ面白い或は有効な貯蓄の方法は澤山あると思ひます。現に皆さんの家庭で実際にやつてをられます種々の方法を常會で話し合つて、もつとよい方法を考へて貯蓄を生まみださうではありませんか。

空閑地利用、共同開墾等は隣組全部が相談し合つて行へば非常に効果があります。

交際費の削減、安くて栄養ある家庭料理、その他家庭生活の刷新等、貯蓄推進上、有益な方法を常會の時にいろいろ持ち出さうではありませんか。

大東亞戰爭貯蓄、結婚貯蓄、養老貯蓄、教育貯蓄等適當なものを選んで實行しようではありませんか。

X X

この夏以來、ソロモン方面で日米死活の大決戦が展開されてゐることは、すでにご承知のところであらう。私も第一、第二次、第三次ソロモン海戦と相次ぐ激戦に、わが方が蒙つた損害をどう見るべきでせうか、「わが方また戦艦一隻を失へり」といふ簡單な言葉の中に、私どもは何を感じ、何を考へねばならんのでせうか。三億圓といふ巨額な金を費し、數ヶ年間に一隻しか出ない戦艦、これを急速に補充するには、如何なる決意を固め、如何なることを實行しなければならぬか。私も貯蓄をする場合にも、この邊のことをよく考へて、二百三十億貯蓄の達成へ、眞剣な努力を注がなければならぬのです。

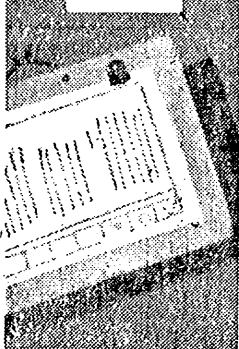
欲しがりません勝つまでは

のやうに喜びます。最後に引く私におきわさしたり、第一番の人にぬかれてゐたり、そのたびに大笑ひいたします。こんど、才當の一万圓が當つたら、みんなを伊勢、駿河に案内するとか、公會堂を寄附するとか、防衛献金や小さいところでは映畫見物に毎日つきあつて頂くとか、楽しい夢を語り合つて夜の更けるのも忘れます。この講金による國債等の消化率は少額ではございますが、精神的には大きなものとなつて、今では私達女ばかりの手で、笑ひながら愉快に安々と國債を消化いたしてゐます。

週報、寫眞週報の申込について

週報を確實に入手されたい方は、各府縣の官報販賣所や最寄の書店、新聞店等の週報販賣店に、なるべく豫約して御購読下さい。また隣組や職場などでまとめて申込まれ、共同配達にしたいなどとして、配本の円滑化、敏速化にご協力願へれば幸いです。

戦ひ抜かう戦争生活



戦争生活とは何か

戦争生活とは日常の生活を通じて戦力を昂めゆく生活をいふのでありませぬ。従つてこの生活は、一億が大御心を奉養して、大東亞戦争の姿を身につけて、大日本帝國の臣民として生活することでありませぬ。戦線、銃後の區別なく生死を超越して、たゞ大君のため、お國のため一身を捧げ奉ることでありませぬ。各人の生活、その一擧手、一投足ことごとくが、國家目的に歸一する生活の實踐であつてこそ、眞の戦ひの生

活であり、そこに戦ふ日本の眞の姿、眞の力としての政治、經濟、文化が確立され、大東亞戦争の完遂に邁進することが出来るのでありませぬ。

いふまでもなく近代戦は、國家の武力、經濟、思想、文化の諸方面に亘つて戦はれるのでありますが、これらの戦ひは、歸するところ、物心両面から交戦國の生活力を根柢から崩壊させるために戦はれるのであります。戦ひを出来るだけ長期に導き、その間、ゲリラ戦等の各種の手段を用ひながら、相手國の疲弊を待つて、一氣に國民の生

活力を撃滅しようとするのであります。こゝに長期戦の性格があります。従つて近代長期戦の決定的勝敗は、この國民生活において定まるといつても過言ではありません。

近代の戦争は國家總力戦といはれてゐますが、それは國家全體の生活と國家全體の生活とが戦ひ合つてゐることにほかならないのであります。

私どもの生活が勝つか、敗れるかは、一にかゝつて今後の私どもの生活の在り方、なされ方にあります。大東亞戦争が有史以來の一大生活戦であると呼

ばれる理由もまたこゝにあります。従つて私どもはその生活内容を高め、私どもの全生活力を強めて、大東亞戦争の要求に應へつゝ、あらゆる困苦と戦ひ、國防のための生活、國を護るための生活を勝ち抜かねばなりません。

戦争生活の目標

そこで、私ども國民の今日の生活目標はどこにあるべきか、これについて確乎たる自覚が必要となつてきます。

私どもの戦争生活の目標は、さきに述べましたやうに、大御心を奉養して陛下の御爲め、直接生活を通じて御奉公するところにあります。私どもはこの感激とよろこびに生きなければなりません。

しかも大東亞戦争は、かつての米英的な自己本位の思想と體制とを、この世界から根本的に覆滅する戦ひであります。この戦ひを戦ひ抜くためには、

まづ國內から米英的な個人生活觀を拂拭しなければなりません。わが國には個人生活はなく、たゞ一つの國民生活があるのみです。工場で働くのも、家庭に在つて食事をとるのも、すべて國民生活でなければなりません。かやうに戦線に、銃後に、生命を賭して國家のために働くといふことが、眞に私ども國民生活の本然の姿であります。

の分け合ひの生活とは、集團と協同の生活のことです。國民の全體が力を協せて苦難を突破し、歡びを分かち合つてゆく隣保協力の生活のことです。

日常生活のすべてを捧げて國家を思ふ生活へ、これが私どもの戦ひの生活目標でなければなりません。

また根本的には、消費のための生活、いはゆる單なる消費經濟の中に行はれる生活ではなくて、常に生活を通じて生産化する生活、生活を過して國力を昂めてゆくところの生活態度でなければならぬのであります。戦争生活の根本理念が「消費生活から生産生活へ」といはれるやうにならなければなりません。

勝つための衣生活

戦争生活は、この不自由勝ちの中かから、どうして國民の生活力を維持調整し、さらにこれを昂めてゆくかといふことにかゝつてゐます。これがためには、あらゆる生活が、分け合ひの生活でなければなりません。生活物資の購入にしても、汽車や電車に乗るにしても、日本的な美しい、分け合ひの生活が實踐されなければなりません。こ

私どものすべての生活が、古い時代の情性から抜け出して、國力を昂めるための生活へ移行されつゝある際、衣生活にも眞に新しい改革が行はれなければなりません。無計画な買漁りや、

高價な品物の買溜めは、切符制が實施されてから幾分少くなつたといつても、まだ、眞にこの時代を生き抜くのにふさはしい衣生活が樹立されたとはいひ切れないと思はれます。點數が少いからといって、むやみに箱物を着たり、華美な色で人目を惹くやうなものが流行するのでは、眞に正しい衣生活とはいへないのであります。

それ／＼の人に與へられてゐる姿や生活は、めい／＼違つてゐますし、時と場合に適つた服装が、各々の中から生まれ出て来なければなりません。着物の在りやうも各々の生活に應じて違つて來、下着とか附屬品等ほどの程度にもつのが適當であるか、少ければ少い程、保存や取扱方の研究がなされねばなりませんし、繕ひや洗濯に要する材料等も問題となります。要するに、これからは新しいもの

を購入するといふよりも、むしろ廢品を更生して、廢品の中から新しいものを作り出すといふ創意と工夫で、物を活かす生活が生まれ出なければなりません。私どもはこの心掛けをもつて困難を克服してゆきたいものです。

勝つための食生活

大東亞戦争の完遂にあつて、私どもは、戦線の擴大と長期化に基づく戦時食糧の重要性を一層認識すると共に、不自由勝ちな日常の食生活に對し、どんな心構へをもつべきかについて、科學的な態度で、眞剣な検討と研究とを必要とあります。

これまでの食生活に對する美食本位の形式的な考へ方を根本的に拂拭し、無駄を排し、どんなものでも「もつたない」といふ心をもとにした新たな構想と計畫による食生活を確立しなければなりません。

そこで戦時食の調和工夫が問題となります。時局の進展によつて、一般食糧がますます不自由になることは、當然のこと、いはなければなりません。私どもはこの當然のことを當然とせず、この不自由に對し、不平や不満を洩らさず、どうしてこれを克服すべきかを工夫し、與へられた限度でそれを最も有効に榮養化し、粗末な材料でどうしておいしくするかを考へることも、勝つための食生活としては最も重要な問題です。この際、食糧を質的に解決して、量的不足感を一掃することが考へられなければなりません。

これには消費規正の徹底につれて、各家庭その他で一定の消費計畫がなされなければなりませんし、また眞に方法の改善を圖らねばなりません。「食べもの」を眞に身につけるには、何となくいつてもよく咀嚼することです。病氣、とくに結核になる原因の最大のも

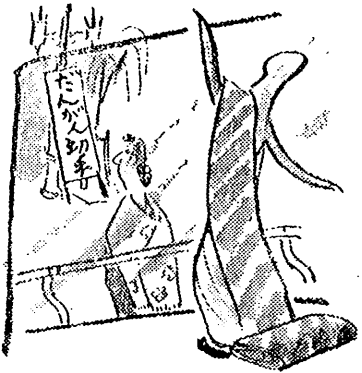
のは消化器病だといはれ、その消化器病の原因の大部分は、過食と不完全咀嚼にあることを思ひますと、國民の定量食糧採取と完全咀嚼の問題は、單に戦時食糧の確保といふことだけでなく、國民體力の増強からも、ぜひとも勵行されなければなりません。

なほまた、部落會、町内會、隣組、學校、工場、會社等における共同炊事は、これまでも相當に優れた成績を擧げてゐますが、今後とも一層徹底させ、非常炊出しの訓練を加へ萬一の用意に備へる等、集團の力、協同の精神をもつて、正しい食生活を打ち樹ててゆかなければならなりません。

勝つための住生活

戦ひの生活のうちで、最も立ち遅れてゐる問題は、住生活の問題だと思ひます。勝つための住生活の問題については、いろいろの點が問題になります。

まづ第一に家の中を明るく開らかにし、清潔にするといふことですが、特に注意しなければならぬことは、生



欲がかりません
勝つまでは

活の中へ科學性を導き入れるといふことであります。これは生活そのものの中へ科學的な工夫をこらし、合理的な正しい生活を生み出すことをいふので

あります。このことは生活を一般に於て徹することですが、特に生活衛生および電氣、燃料の節約といふ點に大きな意味があります。

戦争完遂のための増産が聲を大にして叫ばれてゐる今日、その原動力である電氣、燃料その他の生活物資の節約は、蓋し重大問題といはなければなりません。この科學的な工夫、節約への努力は、戦ひに勝つために、戦力の充實のために、ぜひとも行はねければなりません。

戦争生活と隣組

隣組は、支那事變の勃發以來、精神總動員運動の實踐、防空、銃後援、貯蓄獎勵その他の諸事業を擔當して、重要な役割を果して來ましたが、その後、生活必需物資の切當配給が擔當されるやうになり、また最近では、町内會に消費經濟部が設けられること決定

しましたので、往々にして隣組を以て消費生活の一単位と考へ勝ちでありませぬ。勿論、隣組は消費生活に關して大きな役割を果してをりますが、しかしながら、隣組はどこまでも消費生活の單位としてとらまつてはならないのであります。

これからの隣組は、戦争生活の實踐場として、一切を懸けて競争目的に集中し、競争を勝ち抜くための熱情懇談を眞面目に眞剣に熱心に行ひ、これを實踐に移すところの協賛と實踐の場となさねばなりません。即ち、不自由、不足、窮乏な生活の中から、どのやうにして御奉公の道を盡さうか、國策に協力しようか、決戦下の國民として國家の要請に應へようか、時局下に必要なる國民運動を實踐しようかを考へ、その目的を達成しなければならぬのであります。これがためには、まづ隣組精神の昂揚を圖らねばなりません。

生活必需品の配給問題にしても、町内會に消費經濟部が設けられて、世にやかましい行列買も一應解消されることになりましたが、それにつけても、隣組精神が缺けておたら、佛造つて魂入れずの結果に終ることでありませぬ。

これと同時に、常會を通じて機能を発揮するため、隣組が特に盡さなければならぬことは、下情上通を更に廣く、より強くひらくことあります。常會といへば主として上からのことを聞かされ、配給物資を頂戴することが主なる行為に常態化した向が少くないのであります。今後にはむしろ大いに下情を上通することも主要な一條件とならねばならないのであります。なほまた常會は、知識の共同化を圖る場所としなければなりません。若者は新しい知識を、老人は古い傳統を、持ち寄り、併せて生活を勝ち抜く力としなければなりません。

ればなりません。

戦争經濟と統制

國民各自の日常生活が、直接間接に國家の財政經濟に結びついてゐることは、今更いふまでもないことでありませぬ。

殊に國家が運命を賭して戦つてをり、一國の經濟が競争目的に統制されてゐる現在では、國民生活はその一切を擧げてこの統制下に服し、自己本位、自家中心から脱して、國家目的に協力することは當然のことでありまして、そのために生ずる生活の不自由は、飽くまでもこれを忍び、苟くも自己本位の考へをもつて國家の統制を紊し、秩序を破るやうなことがあつてはならないのであります。

生産者、配給業者、消費者は、その持場々々でよく自分の營みの在り方を反省し、自覚しなければなりません。

生産者の心構へ

今や大東亞戦争

争第二年を迎へ、わが戦争經濟は多大の困難を突破しつゝ、強敵米英を前にして生産戦に全力を擧げてゐます。

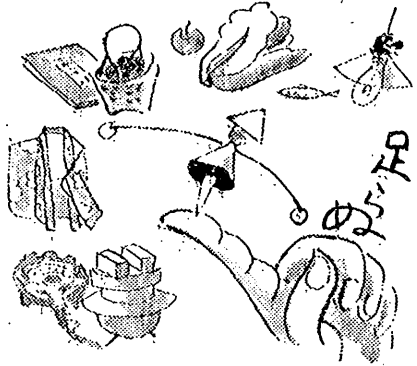
しかし、世上往々にして自己の利益にとらはれ、十分な任務を果してゐない向のあることを聞くのは誠に遺憾なことであります。飛行機五百臺の作製を引受けた工場が、三百臺しか出来ず、残り二百臺分の製作が、約束の期限を遅れるやうなことがありましたら、それは前線で飛行機二百臺を有する部隊が全滅したと同じ結果になります。かやうに生産力は軍の作戦と直接結びつき、生産力の低下は戦力の低下となるのでありますから、生産に従ふ者は、この點を深く心に銘記しなければなりません。

相手は強大な生産力を誇る米英であります。これに拮抗して戦力の均衡を得るだけの生産力を建設するために

は、今後には二層の奮起が要請されます。生産者は出勤率を高めて、職場に

あるときは全力を生産に傾注し、前線

足らぬ足らぬは工夫が



將兵の奮闘に應へなければなりません。また生産に最も要請される創意の發揚も、志氣の昂揚によつて初めて實

現されるのであります。

さらにまた農村方面では、食糧の自給自足態勢をできるだけ速かに確立せねばならなりません。なほ一層の工夫、技術の交流によつて切磋琢磨し、農業生産力の昂揚を圖らねばなりません。

配給業者の心構へ

大東亞戦争

は絶対に勝たねばなりません。勝ち抜かなければならぬのであります。しかしながら、勝てばそれでよいのではなく、勝つて更に建設しなければならぬのであります。大東亞の建設と共に更にその根本においては、舊い米英的世界秩序をその根柢から改め、わが皇道に基づく道義觀を全世界の上に建設するために戦つてゐるのであります。

この一大聖戦を戦つてをります日本は、まづ國內においてこの道義を確立し、國民の全體が一人残らず皇道の秩序に歸一しなければなりません。従

つて私どもは、まづ國內から嘗ての米
的の自己本位の物の考へ方を一掃せ
ねばなりません。それには、何よりも
先に國民の協力によつて、互ひに相戒
めて、一切の經濟違反を排除せねばな
りません。

しかも今次の戦争は國を賭しての戦
ひであり、戦ひの現段階はもはや經濟
違反云々といふやうな、なまやさしい
ところではないのであります。ところが、
一部には闇行爲がなほその跡を絶
たず、銃後の國民生活を混亂に導くや
うであつては、眞に遺憾の極みです。
これらの人々は、たゞ自分だけの利
益を追求して國家のことなどは念頭に
ない非國民であります。しかし今は、
一粒の米、一枚の紙でも戦ひに勝つた
めの統制でありますから、これを取扱
ひ、使用する場合には、それが國家の經
済にどんな影響を與へるかといふこと
に思ひをいたさなければなりません。

一商人の闇行爲や、賣惜みが、適正な
供給をこはし、ひいては物價の騰貴を
來し、どんなに銃後生活の不安を招來
するかは測り知れないものがあります。
價格違反、無切符賣買、賣惜み、買
占め、抱合せ販賣等々の不正取引は、
この戦争下において最も憎むべき大罪
であると同時に、國內における大敵で
あるといはねばなりません。

消費者の心構へ 闇取引を絶滅
するために、消費者自身の反省も絶
對に必要であります。業者も消費者も
一つ心で政府の措置に信頼し、戦争の
ことを考へて、分け合ふ心に徹したな
ら、いまはしい闇や、行列風景をつく
らなくても済むのであります。
遠く異域に在つて、身を鴻毛の輕
きに比して戦つてをられる皇軍將兵の
御勞苦を思ふにつけ、これら勇士の方
方の後顧の憂ひを絶滅することは、私
ども銃後の者の當然の責務でなければ
なりません。

なりません。
消費生活については先づ述べたこと
ろであります。しかし消費生活とは、一
種の生産生活であるといふことを忘れ
てはなりません。國民生活といふもの
は、生産者にとつては明日の勞働力を
生産するところの生活であり、國民に
とつては兵力としての戰闘力を養ふと
ころの生活であります。私どもは家
住み、着物を着、食物を食べて生命を
維持すると共に、その消費生活を通じ
て勞働力と戰闘力とを培養するのであ
ります。東亞戦争下の生活は戰力を
生み出すための生活とならなければな
りません。

新しい經濟道義
私どもは今こそ私益追求の米英的自
由主義經濟を越えて、八紘爲宇の精神
に基づく職域奉公の道義を完遂しなけ
ればなりません。生産者や配給業者は

公定價格制度を守りながら、増産増配
の職域奉公を效し、一方、消費者は消
費を節約して、物資、勞力を軍需産業
に振り向けると共に、餘剩購買力を貯
蓄に振り向けて、戦費や軍需生産費に
當てなければなりません。
また資本家や企業者は、私益を追つ
て不必要な産業や事業に投資すること
をやめて、緊急必要産業に轉ずる責
務を遂行しなければなりません。勞務
者も高賃金をねらつて自由に職業を選
擇して轉じたりすることをやめて、
國家の要請する事業に就くのはもとよ
り、前線勇士と同じ氣持で徴用令に應
召しなければならぬのであります。
また金融業者も高利潤を追ふ自分勝
手の融資を避けて、資金調整法に従つ
て、緊急事業に投資しなければなりま
せん。また何人も不必要な輸送や旅行
を自肅自制して、重要品の輸送に協
力し、又いやしくも勞資の對立のや
うなことはなく、八紘爲宇の下、指

導、服従、和合のうるはしい關係に立
たねばなりません。かくて新しい經
濟道義は、とりもなほさず職域奉公の
道義であります。
要するに、職場も、戦域も、國內の
すべてが戰場なのであります。「こゝ
も戰場だ」といふ氣持になつて、みん
なが、あの前線の心を心として、出世
や、榮達や、利己のすべてを制へて、ひ
たすらお國のために戦ひ抜いてこそ、
眞の戦争生活は實踐されるのです。
かやうにしてこそ、私どもの生活態
度は、立派なものとなり、どこを切つて
も私どもの生活から國家を思ふ生活、
お國に盡す御奉公の姿がにじみ出るこ
とになるのであります。こゝにはじめ
て、大東亞戦争完遂のための私どもの正
しい生活が確立されるのであります。
八紘爲宇の大理想の下、大東亞戦争
もいよいよ決戦の段階に突入しまし
た。私どもはいよいよ心を新たに、し
さらに一層の勇氣と覺悟をもつて、

この戦争生活を戦ひ抜かうではありま
せんか。

寫眞週報
第二百五十號
十二月九日發行
定價 十錢

大東亞戦争一周年 記念第二特輯

- ▽昭南島は名實共にわが領土
- ▽ラップルス島博物館に入る
- ▽マレー建設へ若き現地人を教
- ▽はじめに武器を執つて立ち上つた
- ▽ビルマ防衛軍と、わが指導者
- ▽占領一年近い香港の現況
- ▽皇恩全スマトラに洽く、住民建
- ▽南に広がる大漁旗、バンダ海に
- ▽邦人漁船活躍
- ▽大陸の水路を護る帝國海軍警備
- ▽隊
- ▽マレーに、ジャワに、フィリピンに、
- ▽ビルマに、グアムに
- ▽ラジオ操縦は元氣よく
- ▽兵隊さんの陣中文藝

大空を護る

監視哨 哨美談

十二月九日から十一日まで、全国的に「大東亞戦争第一周年記念防空強化運動」が展開され、特設防護團、隣保班等の自衛防空力の強化がはかれると共に、一方、優良防空監視哨や優良防空團體の表彰が行はれました。

ここに掲げた監視哨美談は、数多い事例の中から、ほんの一部のものを拾ったのですが、私どもはあらゆる困難に堪へつゝ、大空の護りに任じてゐるこれら監視哨の人々に、限りない感謝を捧げると共に、できるだけ、その勞苦を摘はなければなりません。

旺盛な責任感

昭和十七年七月二十四日、朝から灼けつくやうな暑さの中に、〇〇縣の山村〇〇川の水流に沿ふ海拔五〇〇メートルの〇〇峠の山頂に位置する〇〇防空



監視哨では、哨長以下〇名が暑熱をもものとせず、同胞の安全を敢肩に擔つて、黙々と空の護りに餘念がなかつた。丁度午後二時頃である。朝からむし暑かつた空は忽ち雷雨模様となり、見る／＼うちに大雷鳴となつ

た。しかし重任を擔ふ哨員は、一人として持場を離れる者もなく、立哨員はジッと空を睨み、通信室では、哨長以下の勤務員が待機して一寸の隙もなかつた。

この時〇〇防空監視隊本部から重要な指揮命令があつた。待機の通信員は、即時受話機を取り、命令を受領しようとした。

副哨長金子浪亮さんは身の危険も忘れて、直ちにこれに代り受話機をとつた。しかし、雷鳴はますます激しく、真に危険となつたので、やむなく送話中止方を防空監視隊本部に申入れて受話機を置いた。しかしこのまゝに置いては、必ず哨舎に落雷があり、哨員の身に危害が及ぶと思ひ、必死の覚悟で椅子の上立ち上り、電話線のソケットを抜き、哨舎外に投げ出さうとした。と、その刹那、哨舎に激然と落雷し、電話線を握る金子副哨長はたちまち感電して卒倒し、人事不省に陥つた。暫くして哨員の介抱で氣付いた金子さんは、介抱中の哨員に、夢中で「こゝにゐるは危険だ、自分にかまはず逃げる」と叫び、再び氣を失つた。

その後、金子副哨長の傷は約二ヶ月の治療で癒へ復し、去る十月

完璧の監視

〇〇縣〇〇村の副哨長鈴木勇さんは、本年八月父喜三郎さんが病臥し、産褥にある妻は幼い子供を抱へて他に看護する者もないため、家庭を離れることができないにもかゝらず、自分の職責の重要性をよく認識し、勤務當日は病人を隣家に托し、欣然として任務に就いてゐた。

ところが、九月になると、父の病氣は急に重くなつて入院するやうになつた上に、妻は産後の肥立ちが思はずしくないので、哨長はしばしば交替するやうにすすめた。

しかし鈴木さんは、交替のため、監視哨の能力が低下することを心配して應じなかつたので、家業の細仕事も思ふやうに出来なかつた。それに家庭の方も随分困つてはゐたが、そんな

素振りも少しも見せなかつた。他の哨員は、勇さんのこの行爲に大いに感服し、より一層監視の完璧を期すことを誓つたのは勿論、見上げた責任感に報いるため、非番日には勇さんの田畑を勤務先で耕してやり、これも村の話題となつてゐる。

前線に

慰問文、慰問巻を前線將兵に對する感謝と、軍人援護は私ども銃後の責務です。町内會、部落會または隣組單位で慰問文や慰問品を募集し、それぞれ地區から出征の將兵に直接發送させよう。また戦死者の墓碑の清掃や墓參もかゝらず、各職場では自發的に軍人援護献金もせよ。

週報、寫眞週報も

月から全山紅葉した〇〇防空監視哨に再び勤務することになつたが、生死の境を彷徨しながらも、部下の安全を思ふ崇高な戦場精神と、旺盛な責任感には、聞く者みな感激しない者はなかつた。

監視目には家もなし

〇〇縣〇〇郡〇〇村の川尻勇助さん(四〇)は防空監視哨の副哨長であるが、今年一月高松にある監視哨に勤務してゐると、午後二時頃、自分の家のある宇

から煙が立ち上り、それが火事であることが分つた。その日は西風が烈しく、大火になる虞れがあつたので、自分は哨に残り、部下の哨員の中、その宇から出

てゐる者をすぐに歸せさせたが、火は風に煽られてますます燃えひろがり、五十戸程の宇一面に火の手が廻つてしまつ

た。監視哨から見れば、自分の家は炎々と燃えてゐる。同僚や部下は、川尻さんに歸宅を再三すすめたが、「重大な監視哨の勤務は一刻も離れられない。まして自分は副哨長として責任が重いと、家に残つた妻子の危険をも顧みず、グツと齒を喰ひしぼつて空を睨み、かへつて哨員の勤務してゐるのを戒めながら、監視の任務を立派に果たしたのであつた。

この火災は四十三戸、百二十棟が焼失し、川尻さんの家も一物も残さず焼失し、妻や子は身を以て逃れたほどであつた。

川尻さんは火災中歸宅しなかつたばかりか、鎮火後も勤務をつづけ、交替時間になつてから初めて妻子の無事を知り、初めて妻をなつたわが家の跡片付をしたのであつた。

11月抽籤貯蓄債券 當籤番號表(其ノ六)
支拂開始期 12月1日
支拂場所 日本勸業銀行本支店、出張所・代理店及集配所
全當籤番號掲載紙、官報、債券時報表外
(新設表中央大字、同列、括弧内金額、小同額金)
昭和17年11月 大蔵省・日本勸業銀行

40183	40184	40185	40186	40187	40188	40189	40190	40191	40192	40193	40194	40195	40196	40197	40198	40199	40200	40201	40202	40203	40204	40205	40206	40207	40208	40209	40210	40211	40212	40213	40214	40215	40216	40217	40218	40219	40220	40221	40222	40223	40224	40225	40226	40227	40228	40229	40230	40231	40232	40233	40234	40235	40236	40237	40238	40239	40240	40241	40242	40243	40244	40245	40246	40247	40248	40249	40250	40251	40252	40253	40254	40255	40256	40257	40258	40259	40260	40261	40262	40263	40264	40265	40266	40267	40268	40269	40270	40271	40272	40273	40274	40275	40276	40277	40278	40279	40280	40281	40282	40283	40284	40285	40286	40287	40288	40289	40290	40291	40292	40293	40294	40295	40296	40297	40298	40299	40300
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

週刊新聞誌

十一月十九日(木)
十一月二十日(金)
十一月二十一日(土)
十一月二十二日(日)

支那事變第二回(支那事變第五十九回)
支那事變第二回(支那事變第五十九回)
支那事變第二回(支那事變第五十九回)

週報

昭和十七年十二月九日發行

印刷所 東京市神田區大塚

印刷局 東京市神田區大塚

印刷部 東京市神田區大塚

印刷部 東京市神田區大塚

露光量違いにより重複撮影

編輯局報情

週報

號日六十月二十

統制會への職權委讓
生活必需品と鐵道輸送
大東亞戦争一箇年の戦果

一月の常會の頁
隣組の貯蓄例

323號

五錢

週報は民翼賛の道しるべ

11月抽籤	貯蓄債券	當紙番號表(其ノ五)	31233	36161	39584	43866	48273	52648	
支拂開始期	12月1日		31277	36173	39618	43919	48322	52697	
支拂場所	日本勸業銀行本支店、出張所・代理店及集配郵便局		31346	36177	39641	43928	48377	52708	
			31416	36177	39697	44068	48629	52721	
			31451	36191	39727	44078	48637	52711	
			31532	36230	39732	44166	48654	52725	
			31597	36247	39767	44215	48680	52737	
			31632	36252	39792	44246	48693	52756	
			31649	36264	39815	44246	48709	52768	
			31669	36282	39811	44257	48711	52804	
			31681	36284	39823	44257	48726	52824	
			31800	36508	40271	44444	49032	52962	
			31811	36524	40341	44446	49074	53035	
			31817	36520	40371	44537	49130	53107	
			31850	36560	40419	44537	49151	53221	
			31857	36568	40437	44678	49212	53278	
			31871	36571	40490	44727	49229	53336	
			31878	36587	40491	44883	49250	53392	
			31883	36615	40532	44945	49287	53581	
			31885	36633	40605	45076	49436	53586	
			31897	36637	40678	45256	49450	53673	
			31900	36642	40819	45304	49503	53682	
			31902	36642	40894	45344	49547	53682	
			31908	36642	40732	45390	49622	53693	
			31911	36647	40738	45430	49687	53705	
			31912	36678	41149	45442	50032	53827	
			31914	36680	41177	45526	50035	53894	
			31917	36682	41195	45578	50091	53909	
			31919	36682	41205	45625	50192	53935	
			31921	36682	41205	45634	50192	54006	
			31922	36682	41205	45634	50192	54075	
			31923	36682	41304	45728	50224	54075	
			31924	36682	41304	45728	50224	54075	
			31925	36682	41304	45728	50224	54075	
			31926	36682	41304	45728	50224	54075	
			31927	36682	41304	45728	50224	54075	
			31928	36682	41304	45728	50224	54075	
			31929	36682	41304	45728	50224	54075	
			31930	36682	41304	45728	50224	54075	
			31931	36682	41304	45728	50224	54075	
			31932	36682	41304	45728	50224	54075	
			31933	36682	41304	45728	50224	54075	
			31934	36682	41304	45728	50224	54075	
			31935	36682	41304	45728	50224	54075	
			31936	36682	41304	45728	50224	54075	
			31937	36682	41304	45728	50224	54075	
			31938	36682	41304	45728	50224	54075	
			31939	36682	41304	45728	50224	54075	
			31940	36682	41304	45728	50224	54075	
			31941	36682	41304	45728	50224	54075	
			31942	36682	41304	45728	50224	54075	
			31943	36682	41304	45728	50224	54075	
			31944	36682	41304	45728	50224	54075	
			31945	36682	41304	45728	50224	54075	
			31946	36682	41304	45728	50224	54075	
			31947	36682	41304	45728	50224	54075	
			31948	36682	41304	45728	50224	54075	
			31949	36682	41304	45728	50224	54075	
			31950	36682	41304	45728	50224	54075	
			31951	36682	41304	45728	50224	54075	
			31952	36682	41304	45728	50224	54075	
			31953	36682	41304	45728	50224	54075	
			31954	36682	41304	45728	50224	54075	
			31955	36682	41304	45728	50224	54075	
			31956	36682	41304	45728	50224	54075	
			31957	36682	41304	45728	50224	54075	
			31958	36682	41304	45728	50224	54075	
			31959	36682	41304	45728	50224	54075	
			31960	36682	41304	45728	50224	54075	
			31961	36682	41304	45728	50224	54075	
			31962	36682	41304	45728	50224	54075	
			31963	36682	41304	45728	50224	54075	
			31964	36682	41304	45728	50224	54075	
			31965	36682	41304	45728	50224	54075	
			31966	36682	41304	45728	50224	54075	
			31967	36682	41304	45728	50224	54075	
			31968	36682	41304	45728	50224	54075	
			31969	36682	41304	45728	50224	54075	
			31970	36682	41304	45728	50224	54075	
			31971	36682	41304	45728	50224	54075	
			31972	36682	41304	45728	50224	54075	
			31973	36682	41304	45728	50224	54075	
			31974	36682	41304	45728	50224	54075	
			31975	36682	41304	45728	50224	54075	
			31976	36682	41304	45728	50224	54075	
			31977	36682	41304	45728	50224	54075	
			31978	36682	41304	45728	50224	54075	
			31979	36682	41304	45728	50224	54075	
			31980	36682	41304	45728	50224	54075	

(本書の大きさは固定規格[A5]判)